

北海道環境パートナーシップオフィス運営業務等 令和元年度（2019年度）事業 進捗状況（令和2年1月末日現在）

資料2

事業群1 環境課題を軸とした多様な課題の同時解決を目指す「協働取組の推進」					
第5期 達成目標	事業名	令和元年度（2019年度）事業内容	評価指標	事業実績（令和2年1月末日現在）	成果と課題、次年度の方針
<p>・環境課題と社会課題の同時解決を目指す協働取組のノウハウが、道内各地の多様な主体に認知され、実践する上で活用されている。</p>	<p>事業1-1 持続可能な社会の実現に向けた協働取組の創出・支援</p> <p>※エフォート率20% (担当 溝淵)</p>	<p>①協働取組の創出・支援に係る研修会等の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協働の意義や可能性に対する地方自治体担当者の理解を促すため、事務所や北海道等との連携協働により、道内自治体職員等を対象とする研修・意見交換会を札幌市内において1回開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の参加者において、協働に係る理解の深まりや意識変容が確認できる。(アンケートによる参加者の意識変容の割合等) 	<p>①協働の意義や可能性に対する地方自治体担当者の理解を促すため、道内自治体職員等を対象とする、環境パートナーシップ研修を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 2019年度 環境パートナーシップ研修(札幌市6/4、参加者36人、札幌市の共催・北海道の後援) 	<p>〔成果〕</p> <p>◎事業群全体をとおして、環境と社会、経済の諸問題の同時解決には「協働取組の推進」が不可欠であることをあらためて確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修やワークショップのアンケート調査結果では、回答者全員から「参考になる」と評価があった。参加者によるパブリックコメント制度利用についても確認できた。 ・同時解決事業では、環境白書を読む会(事業1-2①)や地球環境金助成金説明会(同③)の道東開催等、多様な機会を提供し、道東における広域ビジョンの策定、採択団体の新たなプロジェクトや地域団体の創出を支援した。また、事業をとおしてSDGsの活用手法の整理を行った。 ・「環境白書を読む会」を初めて地方部との2か所で開催し、地方においてSDGsと地域循環共生圏の情報を発信することができた。 ・政策コミュニケーションを支援する拠点として認知されてきており、道内自治体から次年度の機会創出について相談を受けている。 ・Green Gift 地球元気プログラムから展開して、実施団体の被災地支援活動のふりかえりと報告作成支援を相談対応にて取り組んだ。 <p>〔課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政策コミュニケーションの機会拡大に向けて、引き続き自治体に情報提供を行うとともに、事業2-1⑤に示す地域ESD拠点等との連携協働を進め、民間からの場づくりを働きかけていく必要がある。 ・新期を迎えるGreen Gift 地球元気プログラムにおいては、活動の進展や社会変化にあわせて、活動のねらいを更新する必要がある。 <p>〔次年度の方針(案)〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsの達成や、追加事業として行われた地域循環共生圏の構築を含む、持続可能な社会づくりに向けて、継続して政策コミュニケーションに係る機会の創出、協働取組の推進に取り組む。
		<p>②SDGsを活用した地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「平成31年度 持続可能な開発目標(SDGs)を活用した地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業」(以下、「同時解決事業」という。)において、採択団体及び事務所との連絡調整、連絡会議の開催並びに成果共有会への出席、事業の進捗状況に応じた必要な伴走支援等を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同時解決事業において、地域の環境課題と社会課題の同時解決を目指す取り組みが着実に進んでいる。(事業計画に照らした進捗及び対応状況) ・全国事業により、地域課題の同時解決におけるSDGs活用の有用性が確認され、次年度に応用可能な状態にある。(支援に対する採択団体の評価、SDGs活用方策の整理の有無等) 	<p>②同時解決事業において、継続的に採択事業の伴走支援を行った。地域課題の同時解決やSDGsの活用に取り組み、地方ブロックにおける連絡会(中標津町5/8、札幌市1/14)を開催。全国事業における成果共有会「ローカルSDGsギャザリング」(東京都2/23)では、採択団体と会場の対話支援を行う(予定)。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 採択事業 道東SDGs広域パートナーシップまちづくりプロジェクト - 採択団体 道東SDGs推進協議会(中標津町) - 事業概要 根釧圏における課題の統合的な解決や担い手づくりに向けて、多様な人材が参画するワークショップや広域プラットフォームの構築を進め、道東が誇る自然資本のワズユースと強い地域経済を両立する「地域循環共生圏」の確立を目指す。 	
		<p>③企業のCSR活動と環境NPOの協働モデルづくりの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京海上日動火災保険(株)「Green Gift 地球元気プログラム」において、NPO法人いぶり自然学校(苫小牧市)が実施する森林環境保全を目的とする親子向けイベント(苫小牧市、東川町を想定)の開催等を支援する。※外部資金事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・「Green Gift 地球元気プログラム」実施をとおして協働取組の広がりが見られる。(支援に対する関係主体の評価、プログラムから発展した新たな動きの有無等) 	<p>③NPO法人いぶり自然学校(苫小牧市)が実施した以下の環境保全イベントについて、企画・実施等を支援した。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 木育フェスタ in 東川(東川町6/23、参加者137人) - イコロの森FIKA(苫小牧市9/7、参加者39人) <p>また、NPO法人日本NPOセンターが主催するキックオフ会議・年間振り返り会議(東京都10/21)に参加し、全国各地の取り組みについて情報共有を行った。さらに北海道及び東北の採択団体によるブロック合同会議(青森県三沢市等3/13)をEPO東北とともに企画・実施する(予定)。</p>	
	<p>事業1-2 環境教育等促進法の普及・促進</p> <p>※エフォート率10% (担当 溝淵)</p>	<p>①政策コミュニケーションの促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道内自治体が設置する審議会や各種委員会等への参画機会を活用し、政策の動向を把握し、政策形成や進捗管理、評価に係る政策コミュニケーションを支援する。 ・「環境白書を読む会」等の政策コミュニケーションの機会を活用し、「地域循環共生圏形成」等の環境施策をテーマとして、市民・事業者と政策当事者間の相互理解、ニーズ共有、政策提言等のための対話機会を札幌市内または地方において、2回創出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関与した自治体において、協働に対する理解が進み、政策コミュニケーションの機会が生まれている。(実施件数及び参加者数、支援に対する自治体の評価等) ・政策コミュニケーションの場が活用され、自治体に提案された意見が政策に反映されている。(政策に反映した自治体の有無、アンケートによる参加者の満足度等) 	<p>①以下のような方策により、政策コミュニケーションを促進した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以下の委員会等に参画した。 <ul style="list-style-type: none"> - 石狩浜海浜植物保護センター運営委員会(石狩市8/27、3/16 予定) - 滝川市環境市民委員会(滝川市8/30、1/27) ・政策コミュニケーションの対話機会として、以下のワークショップを開催した。 <ul style="list-style-type: none"> - 令和元年度環境白書を読む会(札幌市8/19、参加者77人・釧路市8/20 参加者44人、環境省北海道地方環境事務所及び北海道、NPO法人北海道環境カウンセラー協会(札幌会場)と共催) - SDGs実施指針改定版(骨子)パブリックコメント・ワークショップ(札幌市11/20、参加者8人) - 北海道気候変動適応計画(素案)パブリックコメント・ワークショップ(札幌市12/20、参加者10人、NPO法人北海道グリーンファンド・Climate Reality Hokkaido・北海道地球温暖化防止活動推進員連絡会と共催) 	
		<p>②環境基本計画に沿った環境教育支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsに係る普及啓発を図るため、地方自治体または環境学習施設と連携して、研修・意見交換機会を地方で1回以上開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsの意義や持続可能な社会づくりに向けた有用性が共有され、積極的に活用する機運が生まれている。(関係主体の意識変容の有無等) 	<p>②滝川市役所と連携して、以下の研修・意見交換会を開催する(予定)。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 滝川の未来と学びを考えるワークショップ(滝川市3/7、定員20人) 	
		<p>③環境NPO/NGOの活動基盤強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道内の環境NPO/NGOの活動基盤強化、特に資金調達及びプロジェクトマネージメント手法の習得を支援する目的で、(独)環境再生保全機構による地球環境基金事業(助成金説明会の開催等)への事業協力を行う。※外部資金事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の参加者において、組織経営等に係る理解の深まりや意識変容が確認できる。(アンケートによる参加者の意識変容の割合) 	<p>③地球環境基金助成金説明会 in 根釧(浜中町10/26、参加者24人、主催:(独行)環境再生保全機構 地球環境基金部)の開催や、道内の市民活動情報等の収集に係り、(独行)環境再生保全機構に協力した。</p>	

※追加業務

事業群1 環境課題を軸とした多様な課題の同時解決を目指す「協働取組の推進」					
第5期 達成目標	事業名	令和元年度（2019年度）事業内容	評価指標	事業実績（令和2年1月末日現在）	成果と課題、次年度の方針
	事業1-3 地域循環共生圏づくりプラットフォームの構築に向けた団体支援等	<p>①令和元年度環境で地方を元気にする地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業に係る補助業務</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域循環共生圏事業において、採択団体に対して北海道地方環境事務所が行う打ち合わせ及びヒアリングの記録等、補助を行う。 地方自治体を対象に、地域循環共生圏構築の可能性の観点からヒアリングを行う。 <p>※「地域循環共生圏」については、図1及び参考資料「令和2年度 地域循環共生圏づくりプラットフォームの構築に向けた地域循環共生圏の創造に取り組む活動団体の公募について（公募要領）」、令和元年度 環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書「持続可能な未来のための地域循環共生圏」を参照</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域循環共生圏の構築に向けた道内の取り組み概況が把握できる。 	<p>①以下のとおり地域循環共生圏事業に係る補助業務を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 北海道地方環境事務所による打ち合わせ及びヒアリング（8/22、11/26）に参加し、記録等の補助を行った。また、長沼町主催の「タンチョウとわたし 活動報告会」（長沼町 1/18）に参加し、情報収集に努めた。 <ul style="list-style-type: none"> 採択団体 長沼町 活動テーマ タンチョウも住めるまちづくり 事業概要 人とタンチョウが共生し、それが魅力となったまちを目指し、商品開発や環境教育の実施に取り組む。 上記採択団体以外に、以下の地方自治体を対象にヒアリングを行った。（道央）古平町（予定）（道南）八雲町・北斗市・知内町（道北）稚内市・豊富町・羽幌町（道東）興部町・津別町（十勝）上士幌町・鹿追町 	<p>〔成果〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 道内の地方自治体の政策におけるSDGs及び地域循環共生圏の活用状況傾向を把握した。 <p>〔課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 地方自治体では、政策におけるSDGs活用の機運は必ずしも高くはない。地域循環共生圏に近い取り組みのある自治体においても、統合的な政策推進の拡充が目指されているとは限らないことがわかった。 <p>〔次年度の方針（案）〕</p> <ul style="list-style-type: none"> SDGsの達成と、SDGsの地域版としての地域循環共生圏実現に向けて、引き続き情報収集、発信及び活動に対する支援を行う。

事業群2 持続可能な社会を担う人材育成のための「学習と交流の機会創出」					
第5期 達成目標	事業名	令和元年度（2019年度）事業計画	評価指標	事業実績（令和2年1月末日現在）	成果と課題、次年度の方針
<ul style="list-style-type: none"> 道内各地の多様な世代や立場の主体がSDGsについて学び合い、持続可能な社会づくりに向けた対話の場が生まれている。 	<p>事業2-1 北海道地方ESD活動支援センター運営等</p> <p>※エフォート率30%（担当 大崎）</p>	<p>①地方ESD活動支援センター企画運営委員会の設置・運営等</p> <ul style="list-style-type: none"> 「北海道地方ESD活動支援センター企画運営委員会」を設置し、ESD活動実践者等の支援や地域におけるESDの普及・啓発等の方策、地方センターの活動方針等について議論を行う。 <p>②ESD活動に関する情報収集及び発信等</p> <ul style="list-style-type: none"> ESD活動実践者向けに、国内外のESD活動に関する情報・資料等を収集し、求めに応じて提供する。また、WEBサイトの運用を行い、地方センターの活動状況等について情報発信を行う。 引き続き、道内教育行政との情報共有を図る。 <p>③ESD活動に関する相談対応・支援等</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域のESD活動実践者・実践団体（学校や社会教育施設、NPO・NGO、企業等）等から、ESD活動を実践するに当たって相談や支援の要請があった場合は、適切に対応する。 <p>④全国センター開催業務への出席及び対応</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国センターが開催する企画運営委員会等について、情報提供や連絡調整等の協力を行う。またこれら会議等に出席して情報収集等を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 各事業の参加者において、ESD及びSDGsに係る理解の深まりや意識変容が確認できる。（アンケートによる参加者の意識変容の割合、関係者による評価等） 行政やNPO/NGO、企業、関係機関等、多様な立場・分野との連携協働により、ESDの推進やSDGsの導入に向けた新たな取り組みが生まれている。（本事業により新たに生まれた活動やネットワークの有無等） 地域ESD拠点登録制度の活用方策を見出し、道内で合計15件程度の地域ESD拠点が登録されている。（制度活用に対する地域ESD拠点の評価、拠点の合計登録件数等） アドバイザー登録及び派遣制度の次年度に向けた展開方策が見出されている。（制度の派遣実績や制度に対する関係主体の評価、制度利用者の意識変容の有無等）に対する関係主体の評価等） 	<p>①北海道地方ESD活動支援センター企画運営委員会を年2回（札幌市 6/11、2/5）開催した。</p> <p>②情報収集を行い、以下のとおり発信を行った。なお、WEBサイトによる情報発信等の詳細は、EPO北海道の業務実績とあわせて、事業3-2①に記載する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 北海道アウトドアフォーラム2019（日高町 10/29-31）において、SDGsに係る情報発信を行った。 北海道中学校長会第3回理事研修会（札幌市 8/8）、北海道小学校長会第4回研修会（札幌市 12/16）において、北海道地方ESD活動支援センターの活動状況等について情報発信を行った。 <p>③相談対応・支援等の詳細は、EPO北海道の業務実績とあわせて、事業3-2②に記載する。</p> <p>④全国センターが開催する以下の企画運営委員会等に参加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ESD活動支援センター企画運営委員会（東京都 7/8、3/17） ESD活動支援センター連絡会（東京都 5/16、10/17、1/15） ESD推進ネットワーク可視化に関するタスクフォース（東京都 6/7、1/6） ESD推進ネットワーク可視化報告交流会（東京都 10/16） 関東地方ESD活動支援センター第2回地域ESD拠点意見交換会（東京都 1/26） 	<p>〔成果〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施事業について以下の評価を得ている。 <ul style="list-style-type: none"> 主催、共催事業のアンケート集計結果では回答者の8割以上から「参考になった」と評価を得ている。 SDGsをテーマとした、学校教員等を対象とした研修会には地方からの参加もあった。次年度の継続開催も期待されている。 ESDアドバイザー派遣制度では、制度利用者より高い評価を得ている。 ユースを対象とした事業がひとつの契機となり、ユースの新しい活動団体が形成された。また、企業や企業団体等の事業に関わり、次年度も講演等の協力を継続する予定である。 地域ESD拠点は、今年度新たに8拠点の登録があり、さらに数件の見込みを得ている。SDGsのゴールのマッピングや指標の試作等により、青少年体験活動支援施設、ジオパークとの連携が進んでおり、継続してESD/SDGs推進に向けた動きがある。 <p>〔課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年度に増して、企業等からのSDGsへの注目が高まっている。SDGsの本質を踏まえた情報発信や活動支援を行う必要がある。 ESDアドバイザー派遣制度の利用拡大に向けて、引き続き周知を強化していく必要がある。 今年度、全国センターが実施した地域ESD拠点を対象としたアンケート調査結果では、情報提供や連携協働促進に対して一定の評価があるものの、「地域のESD実践者の増加には寄与できていない」という回答が多くあり、実践者増加に貢献する支援策を検討する必要がある。

事業群2 持続可能な社会を担う人材育成のための「学習と交流の機会創出」					
第5期 達成目標	事業名	令和元年度（2019年度）事業計画	評価指標	事業実績（令和2年1月末日現在）	成果と課題、次年度の方針
<p>・道内各地の多様な世代や立場の主体がSDGsについて学び合い、持続可能な社会づくりに向けた対話の場が生まれている。</p> <p>※2ページからの続き</p>	事業2-1 北海道地方 ESD 活動支援センター運営等	<p>⑤ESD 活動に関するネットワークの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国センターが主催する「ESD 推進ネットワーク全国フォーラム」について、情報や資料の提供等の協力を行うとともに、これに出席し、各地域のESD実践者等との交流を図る。 ・地域における多様なステークホルダーが一堂に集い、地域ネットワークの形成を構築する機会として、「ESD 担い手ミーティング」を開催する。 ・地域 ESD 拠点として期待される拠点施設・組織を対象に5か所程度にヒアリングを行い、施設及びESD活動の内容を把握し、登録に向けた働きかけの検討を行う。また、地域 ESD 拠点の登録を促進するために、ESD 活動実践者等に対する情報発信や調整等を行うとともに、登録手続においては登録審査を行う全国センターに対する情報提供等を行う。 ・地域 ESD 拠点との情報共有やイベント協力、プロジェクト実施等の連携協働により、地域におけるESD活動の支援を図る。 		<p>⑤ネットワークの構築に向けて、以下のとおり取り組みを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2019（東京都 12/20-21、参加者延べ424人）に参加。分科会のファシリテーター等を務めた。 ・ESD 担い手ミーティングを以下のとおり開催した。 <ul style="list-style-type: none"> - SDGsの本質ってなんだっけ？ SDGs そもそも論（札幌市9/8、参加者29人、NPO法人さっぽろ自由学校「遊」と共催） - 北海道版メジャークラウドをつくろう！（札幌市2/6、NPO法人さっぽろ自由学校「遊」と共催） ・6件の拠点施設・組織に対して、以下のとおりヒアリングを実施し、地域 ESD 拠点登録に向けた情報提供等を行った。 <ul style="list-style-type: none"> - 標津サーモン科学館（標津町） - 北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル森（森町） - ポロトの森エコミュージアム推進協議会（白老町） - 生活協同組合コープさっぽろトドックエコステーション（江別市） - ノンノの森ネイチャーセンター（津別町）※予定 - NPO法人シュタイナースクールいずみの学校（豊浦町）※予定 ・地域 ESD 拠点と以下のとおりプロジェクトを実施した。 <ul style="list-style-type: none"> - 北海道教育庁生涯学習局生涯学習課との協力により、道内6施設のネイパル事業に係り、事業とSDGsのマッピングやSDGs宣言の作成について出講等により支援した。 - 北海道ジオパークESD連絡会議（札幌市5/15、参加者10人）を開催し、第10回日本ジオパーク全国大会2019（大分県10/31-11/5）での展示作成に係り、ジオパーク活動とSDGsのマッピングや、ローカライズ指標案の作成等を道内ジオパーク関係者と協働で実施した。 	<p>〔次年度の方針（案）〕</p> <p>◎ユネスコで策定されたGAPの後継目標「持続可能な開発のための教育：SDGs達成に向けて（ESD for 2030）」において、ESDはSDGs達成に不可欠な実施手段と明記された。これを受けて次年度は、<u>SDGs達成のための課題の同時解決に主軸を置いた担い手の育成、支援を意識し、本質的な情報収集及び発信・共有を進めていく。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度（2020年度）に予定されている「ESD国内実施計画」改定に際し、<u>計画の実効性を高めるため、北海道の課題等を踏まえ、提案を行う。</u> ・活発化しているSDGs達成に取り組むユースの活動を後押しすることができるよう、関係者間の情報共有と支援策の検討を進める。 ・SDGsへの関心の高さを、実際に地域の変革につなげていくには、<u>地域 ESD 拠点等との連携・協働を進め、地域の中間支援的な機能の充実を図る必要がある。</u>そのため、青少年体験活動支援施設やジオパーク等の対話の機会を拡充することを検討する。
	事業2-2 ESDの活動推進等の支援 ※エフォート率10%（担当 大崎）	<p>⑥ESDの普及啓発に関する具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ESD及びSDGs推進に向けた道内の政策連携を支援するため、道内自治体等との情報共有・意見交換の機会を札幌市内で1回以上開催する。 ・道内の学校教育関係団体等との連携協働により、学校教育及び社会教育関係者を対象とする研修会等を札幌市内で1回開催する。 ・学校教育関係者を主な対象とした、ESD活動を支援するアドバイザー登録及び派遣制度を運用する。 ・上記関係者等との連携協働により、学校等を対象とするESD及びSDGsの普及啓発ツールを作成、公開する。 		<p>⑥普及啓発にむけて、以下のとおり取り組みを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道内自治体等との情報共有・意見交換の機会として、SDGs未来都市から学ぶ！～SDGsの取り組み方を見つけよう！～（札幌市8/13、参加者30人、北海道・札幌市と共催）を開催した。 ・学校教員を主な対象とした研修会を以下のとおり開催した。 <ul style="list-style-type: none"> - 夏の合宿セミナー2019（札幌市7/26-27、参加者25人、北海道開発教育ネットワークと共催） - 学校教育におけるESD学習会（札幌市12/8、参加者29人、札幌市と共催） ・ESDアドバイザー派遣制度を運用し、以下の6件について派遣を行った（派遣先の延べ参加者218人）。 <ul style="list-style-type: none"> - 国立大雪青少年交流の家（美瑛町8/14） - 石狩管内PTA連合会 Aブロック単P会長会議（千歳市9/6） - 北海道PTA連合会 第1ブロック第3回連絡会研修会（江別市9/28） - 北海道教育委員会社会教育主事会（札幌市10/19） - 岩見沢市立栗沢小学校 SDGs研修会（岩見沢市11/11） - 高文連道南支部ボランティア専門部 秋の研究大会（函館市12/1） ・ポスター「持続可能な社会をつくる！SDGs」（図1）を作成し、函館市地域交流まちづくりセンター第15回NPOまつり（函館市7/28）、はこだてエコライフフェア（函館市7/28）、SDGs×北海道交流セミナー（札幌市2/7）等での掲示や、WEBサイトでの配信を行った。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・今後のESDの担い手として期待される人材・組織の育成に向けて、「ESD学び合いフォーラム」を札幌市または地方で1回、開催する。 ・道内の主要なESD推進拠点である「RCE北海道道央圏協議会」に引き続き参画し、産学官民協働でSDGsに関する学習機会や活動を創出する。 ・（独行）環境再生保全機構と連携し、全国高校生環境活動コンテストの実施に協力する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ESD学び合いフォーラムとして「SDGsカードゲームで世界とのつながりを考えよう」（鹿追町6/19、参加者45人、とかち鹿追ジオパーク推進協議会と共催）を開催した。 ・「RCE北海道道央圏協議会」に引き続き参画した。 ・（独行）環境再生保全機構と連携し、第5回全国ユース環境活動発表大会（北海道地方大会 札幌市11/10、全国ユース環境フォーラム 東京都2/8）の開催に協力した。 	

事業群3 誰一人取り残さない社会の基盤となる「中間支援機能の強化」												
第5期 達成目標	事業名	令和元年度（2019年度）事業計画	評価指標	事業実績（令和2年1月末日現在）	成果と課題、次年度の方針							
<p>・道内各地で多様なレベルにおいて、持続可能な社会づくりに向けた協働取組や学習を促進する中間支援力が機能している。</p>	<p>事業3-1 拠点間連携による地域内の中間支援機能強化</p> <p>※エフォート率10%（担当：福田）</p>	<p>①「環境中間支援会議・北海道」の協働運営</p> <ul style="list-style-type: none"> 札幌圏の環境中間支援組織4団体（NPO 法人北海道市民環境ネットワーク「きたネット」、札幌市環境プラザ（指定管理者：公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会）、公益財団法人北海道環境財団）と関係行政機関で構成する「環境中間支援会議・北海道」の協働運営を継続し、関係行政機関を含めた定期的な情報共有とそれぞれの活動への反映等を行う。 環境学習施設の課題解決等に向けた学習・対話機会を札幌市内で1回実施する。 <p>②「環境☆ナビ北海道」の協働運用</p> <ul style="list-style-type: none"> 道内の環境保全活動等の情報共有サイト「環境☆ナビ北海道」による一元的な情報収集・発信の仕組みを継続して運用する。また、利用者ニーズに応じた改善等が必要となった際には、可能な限り対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> 道内各地の環境学習拠点施設の運営をめぐる課題が当事者及び関係者間で認識・共有され、改善・解決に向けた具体的な方針が得られている。（次年度以降の取組方針の有無等） 札幌圏での拠点間連携の仕組み及び情報発信が効率的に継続され、機能している。（「環境☆ナビ北海道」情報発信件数、サイトアクセス数、情報発信先件数等） 実施業務全般を通して、道内各地の中間支援拠点間連携の発展・強化が確認できる。（拠点間の交流実績や新たな連携事業の創出等） 	<p>①「環境中間支援会議・北海道」の協働運営を継続し、関係行政機関を含めた定期的な情報共有と連続勉強会の開催を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「環境中間支援会議・北海道」の規約に基づく年4回の定例会に参加（6/18、9/27、12/25、3/19 予定）し、事業計画や活動予定等の情報共有等を進めた。 札幌市温暖化対策推進計画改定に向けた実践者ワークショップ（札幌市 8/6、参加者 24 人、札幌市環境局の主催、環境中間支援会議・北海道の共催） 連続勉強会「環境学習施設の可能性を考える」第6回「実践に使える質的調査と量的調査」（札幌市 1/23、参加者 44 人、環境中間支援会議・北海道の主催）を開催した。 <p>②道内の環境保全活動等の情報共有サイト「環境☆ナビ北海道」による一元的な情報収集・発信の仕組みを継続して運用した。</p>	<p>〔成果〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 「環境中間支援会議・北海道」の協働運営、「環境ナビ☆北海道」の協働運用に着実に取り組み、連続勉強会を継続して開催している。 ◎SDGs への関心の高まりから、<u>相談対応件数が昨年度 75 件から今年度（10 か月）138 件とほぼ倍増している</u>。行政や学校教育関係者からの問い合わせが増加しており、EPO 北海道／北海道地方 ESD 活動支援センターが情報拠点として認知されるようになっていくことがわかる。 講演等の聴講者から新たな出講が依頼されたり、講演や学習会に関する相談を継続的に受けたりすることから、<u>相談対応の成果について支援対象者から一定の評価を得ている</u>と考えられる。 2016、17 年度に実施した災害対策に関わる事業が現在につながり、道内 NPO 支援センターを中心とした被災地支援団体の設立や基金の造成が実現（相談対応として協力）。 各種会議や調整等をとらして全国実施の事業に貢献し、全国レベルの ESD 推進ネットワークの構築に寄与している。 <p>〔課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> SDGs 達成及び、地域循環共生圏構築に向けた実行を促進するため、SDGs に関する情報が急激に増えている状況において、<u>適切に情報発信ができるように情報収集・整理に取り組む必要がある</u>。 <p>〔次年度の方針（案）〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界規模での環境問題の深刻化に伴い、SDGs を中心とした相談は、次年度も引き続き多く寄せられると想定される。SDGs 及び地域循環共生圏の情報を整理して <u>WEB サイトでの発信を効果的に行うとともに、スタッフの対応力の向上を図るものとする</u>。 							
	<p>事業3-2 情報収集・発信及び相談対応</p> <p>※エフォート率10%（担当：福田）</p>	<p>①情報収集・発信</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施業務の内容に係る地域課題の把握や、協働取組及び中間支援機能の拡充に向けて、実施業務全般を通じて常に道内の産学官民の動向及び国内外の最新の情報を幅広く収集する。 情報発信においては、スマートフォンに対応した WEB サイトや SNS、メールニュース等、WEB メディアによる発信に加え、各実施業務におけるさまざまな学習・対話の場を通じた直接的な発信、関連学会での発表等による発信等、対人発信の機会を最大限に活用し、これらを効果的に組み合わせ実施する。 <p>②相談対応等</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境教育等促進法第 19 条が規定する国の拠点として、各種の情報照会及び相談に広く対応し、必要に応じて助言や支援を行う。 <p>③全国事業に関わる会議参加等</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国 EPO 連絡会議や ESD 活動支援センター連絡会など、全国事業に係る連絡会議に必要なに応じて出席する。また、これを補完する EPO 請負団体統括者会議等に必要なに応じて参加する。 		<ul style="list-style-type: none"> 基盤的業務を着実かつ効率的に遂行し、必要に応じて改善できている。（購読者数、サイトアクセス数、Facebook フォロワー数、寄稿等への発信数） 実施業務全般を通して、プロセスマネジメント機能の向上が図られている。（支援対象者の満足度、相談業務に関する内部評価等） 全国事業に貢献している。（関係主体の評価等） 		<p>①情報発信等の実績については以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> メールマガジン発行件数 42 件、購読者数 1,539 人 Facebook フォロワー数 864 人 WEB サイト関連（件） <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>掲載記事</th> <th>アクセス数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>EPO 北海道</td> <td>281</td> <td>26,028</td> </tr> <tr> <td>地方センター</td> <td>169</td> <td>897</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> この他、「北海道 SDGs 推進人材バンク」（事務局 北海道総合政策部政策局計画推進課 SDGs 推進グループ）に登録した。 <p>②相談対応は 138 件である。相談対応に基づいて出講等を行った案件が 16 件（延べ参加者 344 人）、共催・協力等による支援が 4 件あった。詳しくは表 1～3 参照。</p> <p>③全国 EPO 連絡会議や ESD 活動支援センター連絡等、全国事業に係る連絡会議に参加し、情報共有や意見交換、進行支援等を行った。</p>		掲載記事	アクセス数	EPO 北海道	281	26,028
	掲載記事	アクセス数										
EPO 北海道	281	26,028										
地方センター	169	897										

事業群4 オフィス運営等 ※エフォート率10%			
令和元年度（2019年度）事業計画	評価指標	事業実績（令和2年1月末日現在）	成果と課題、次年度の方針
<p>①運営協議会の設置・開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 北海道環境パートナーシップオフィス運営協議会を年2回開催し、幅広い関係者の参画により、業務実施計画について協議を行う。 <p>②施設の維持・管理等</p> <ul style="list-style-type: none"> 北海道環境パートナーシップオフィスの設備等を維持・管理するために必要な業務を行う。管理においては、会議スペース及び機関誌等の配布スペースを確保、活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業1～3に資する施設の維持・管理や運営協議会の設置・開催が実現している。（内部評価及び運営協議会による評価等） 	<p>①北海道環境パートナーシップオフィス運営協議会を以下のとおり開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1回運営協議会（札幌市 5/14） 第2回運営協議会（札幌市 2/26） <p>②施設の維持・管理等を行った。円滑な運営のため、北海道地方環境事務所の参加による月例スタッフミーティングを月に1回、年12回開催。また、毎週1回以上、オフィス内での情報共有の機会を持ち、業務に関する情報や支援に対する認識等について共有、意見交換を行っている。</p>	<p>〔成果〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業群3の成果のとおり、多様な分野から出講・情報発信の依頼が多数あり、関連知識の獲得やプレゼンテーション能力の向上が促された。 <p>〔課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 業務量の増加に伴い、スタッフが単独で担当する業務も増えているが、地域や人材の情報等が属人的なものとならないように留意する必要がある。 <p>〔次年度の方針（案）〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き情報共有の機会を維持、確保するとともに、可能な限りスタッフ複数体制でプロセスを共有しつつ、各業務に当たるものとする。

図1 ESD 及びSDGs の普及啓発ツール



エスディー・ジーズ
持続可能な社会をつくる！SDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標

SDGsってなに？

- SDGs は「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」です。
- 2015年9月に国連総会で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ：我々の世界を変革する」の中核をなす世界共通の目標です。
- 2030年の達成を目指し、17のゴールと169のターゲットから構成されています。経済・社会・環境それぞれの課題が統合的に解決されるよう、私たちがみんなで取り組む目標です。
- 地球上の弱い立場の人々にも焦点を当て、「誰一人取り残さない（no one will be left behind）」という理念を掲げています。

「持続可能な開発」ってどういうこと？

将来の世代のための環境や資源を使いすぎることなく、現在の世代の生活をよりよい状態にすることだよ！

私たちも取り組む必要があるの？

私たちの暮らし方は、地球上で使える資源の量や環境を維持できる許容範囲を超えています。世界の人々の生活を支えるためには、1.75個分の地球が必要であるといわれています。

気候変動や生態系の保全など環境に関わる課題だけではなく、飢餓や貧困、人権問題など深刻な社会課題も存在します。そして、これらは他の問題と相互に絡みあっており、解決を難しくしています。そのことを理解し、パートナーシップに基づいて身近な地域や社会を変えていくことが、世界や未来の持続可能性を高め、SDGsの達成につながります。




ゴミが捨棄される河川
高田川(2012 1850フォート・クリップ撮影)

経済発展の影で
中国東部、2009 (ESDフォート・クリップ撮影)

暮らしに身近である「お弁当」を例に、
経済・社会・環境の課題とのつながりを見てみましょう。



図 お弁当から見る暮らしと社会のつながり
引用：地球環境パートナーシッププラザ、2019
「SDGs達成に向けた持続可能な地域の創り手を育む学びの場づくり ガイドブック」

2030年の地球は、どのような姿ですか？
どのような環境や社会を将来の世代に残したいのか、そのためには
何ができるのか、SDGsをきっかけにみんなで考えてみましょう。

環境省北海道環境パートナーシップオフィス／北海道地方ESD活動支援センターの取り組み



定例会、自治体などに向けた「ESD推進協議会セミナー」(2019年3月9日・4・8時)



持続可能な社会をつくる実践者と若者が出会う「ユースフォーラム」(2019年10月・6時)

環境省北海道環境パートナーシップオフィス（EPO北海道）は、環境省北海道地方環境事務所と公益財団法人北海道環境財団が協働で運営する、環境保全活動や環境教育の推進拠点です。協働による持続可能な社会づくりや、ESD（持続可能な開発のための教育）、SDGsを推進しています。

SDGsに関するご質問などお気軽にお寄せください

環境省北海道環境パートナーシップオフィス <https://epohok.jp/>
北海道地方ESD活動支援センター <https://hokkaido.esdcenter.jp/>
〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番 大五ビル7階
TEL：011-596-0921 FAX：011-596-0931 E-mail：epoh-webadmin@epohok.jp






2019.9

1

表1 道内における地域 ESD 拠点

No.	拠点名	所在地	地域区分 (4区分)	登録年度
1	北海道教育大学釧路校 ESD 推進センター	釧路市	道東	平成 29 年度 (2017 年度)
2	北海道羅臼町教育委員会	羅臼町	道東	
3	独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大雪青少年交流の家	美瑛町	道北	
4	NPO 法人 旭川 NPO サポートセンター	旭川市	道北	
5	一般財団法人 北海道国際交流センター	函館市	道南	
6	北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル深川	深川市	道央	平成 30 年度 (2018 年度)
7	北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル北見	北見市	道東	
8	北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル森	森町	道南	
9	北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル厚岸	厚岸町	道東	
10	北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル砂川	砂川市	道央	令和元年度 (2019 年度)
11	三笠ジオパーク	三笠市	道央	
12	北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル足寄	足寄町	道東	
13	白滝ジオパーク	遠軽町	道東	
14	独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立日高青少年自然の家	日高町	道央	
15	NPO 法人 霧多布湿原ナショナルトラスト	浜中町	道東	
16	NPO 法人登別自然活動支援組織モモンガくらぶ	登別市	道央	
17	認定 NPO 法人サロベツ・エコ・ネットワーク	豊富町	道北	

表2 2019（令和元）年度 EPO 北海道／北海道地方 ESD 活動支援センター相談対応一覧

No.	対応 年月	事業区分 (EPO 事業対応)	相談者属性	相談者 活動地域	相談事項	中間支援機能 ※			
						変革促進	プロセス支援	資源連結	問題解決提示
1	2019.4	協働取組	NPO/NGO	石狩	札幌市生物多様性担当部局の紹介依頼			○	
2		協働取組	企業	道外	札幌近郊での CSR 活動機会の紹介依頼			○	
3		協働取組	企業	石狩	SDGs 等を踏まえた今後の事業展開に係る相談			○	○
4		中間支援	ユース	道外	環境に関わる道内求人情報等について			○	
5		人材育成	学校教育関係者	日高	地域 ESD 拠点及び SDGs 掲示物等の問い合わせ		○	○	
6		人材育成	学校教育関係者	日高	ESD センターの名義後援依頼		○		
7		人材育成	行政	上川	SDGs と事業の対応についての相談			○	
8		人材育成	行政	石狩	SDGs 関連情報の提供依頼			○	
9		人材育成	企業	石狩	地域での SDGs 推進を目指したラジオプログラムの作成について	○	○	○	
10		中間支援	NPO/NGO	上川	市民活動事例についての情報提供依頼			○	○
11		協働取組	企業	石狩	札幌市の環境教育団体等の情報提供依頼			○	○
12		人材育成	NPO/NGO	石狩	福祉とまちづくりに取り組む市民団体の紹介依頼			○	
13		人材育成	学校教育関係者	上川	SDGs 関連情報の提供相談		○		
14		人材育成	学校教育関係者	空知	ミャンマーに関する講師紹介			○	
15		中間支援	NPO/NGO	石狩	環境関連事業の掲載可能施設等の情報提供依頼			○	
16		中間支援	NPO/NGO	石狩	森林保全と経済活動を両立させている林業団体の紹介			○	
17		人材育成	行政	石狩	SDGs に関心のある企業の紹介依頼			○	
18	2019.5	人材育成	ユース	石狩	所属団体の取り組み整理		○	○	
19		人材育成	ユース	空知	環境に関する取り組みの紹介依頼		○	○	
20		中間支援	NPO/NGO	石狩	環境に関心を持つ企業の紹介依頼			○	
21		中間支援	行政	渡島	講師の紹介依頼			○	
22		人材育成	NPO/NGO	石狩	全国規模のユース団体の取り組みについて			○	
23		人材育成	学校教育関係者	石狩	SDGs に取り組む社会人の紹介		○	○	
24		協働取組	企業	道外	札幌市における SDGs の取組状況等			○	
25		人材育成	NPO/NGO	道外	地域 ESD 拠点の登録団体について		○		
26		協働取組	NPO/NGO	空知	G20 大阪市民サミット分科会への参加について		○		
27		中間支援	行政	石狩	セミナーへの出前講座依頼		○		
28		協働取組	NPO/NGO	石狩	サッポロ・スマイル・アワード候補者の提案依頼			○	

No.	対応 年月	事業区分 (EPO 事業対応)	相談者属性	相談者 活動地域	相談事項	中間支援機能 ※				
						変 革 促 進	プ ロ セ ス 支 援	資 源 連 結	問 題 解 決 提 示	
29	2019.5	人材育成	NPO/NGO	道外	知床学概要図の提供について			○		
30		中間支援	行政	オホーツク	高校生の教育旅行（札幌）における活動について			○		
31		協働取組	NPO/NGO	石狩	大型クルーザー誘致と SDGs の関わりについて			○	○	
32		中間支援	NPO/NGO	後志	トヨタ環境活動助成プログラムへの申請について		○		○	
33		人材育成	NPO/NGO	渡島	SDGs に関する記事執筆者の問い合わせ			○		
34		人材育成	学校教育関係者	上川	開発関係のワークショップ実施者について		○	○		
35		人材育成	行政	日高	ジオパークと SDGs の関わりについて				○	
36		人材育成	行政	十勝	高校での講義依頼			○	○	
37		中間支援	NPO/NGO	石狩	イベントの周知依頼			○		
38		中間支援	行政	石狩	人材募集の周知依頼			○		
39		中間支援	NPO/NGO	道外	助成金の紹介・周知依頼			○		
40		人材育成	NPO/NGO	石狩	子ども向け SDGs ワークショップの講師について			○		
41		協働取組	企業	石狩	SDGs 推進委員会への参画依頼	○	○	○	○	
42		人材育成	学校教育関係者	上川	事業周知の協力依頼			○		
43		中間支援	企業	空知	札幌圏の企業への広報依頼		○	○		
44		中間支援	NPO/NGO	石狩	イベントの周知依頼			○		
45		人材育成	学校教育関係者	日高	環境教育プログラム資料の提供について			○		
46		2019.6	中間支援	学校教育関係者	石狩	社会教育関係職員等研修会の講師紹介依頼			○	
47			中間支援	NPO/NGO	上川	道内の水生生物に関する資料照会			○	
48			協働取組	行政	渡島	シンポジウムへの登壇依頼		○		
49	人材育成		行政	石狩	SDGs 人材バンク（案）の内容について		○		○	
50	中間支援		NPO/NGO	石狩	まちづくりワークショップ等の手法について			○		
51		人材育成	学校教育関係者	十勝	高校における地域学習について				○	
52		中間支援	行政	十勝	情報発信の多言語化について			○		
53		人材育成	学校教育関係者	石狩	SDGs に関するフィールドワークについて				○	
54		協働取組	行政	石狩	協働取組ハンドブックの活用について		○	○		
55		人材育成	NPO/NGO	石狩	SDGs に関わる講師来道について				○	
56	2019.7	人材育成	行政	石狩	SDGs 広報紙作成のための委員就任依頼		○			
57		中間支援	企業	石狩	EPO 北海道及び札幌近郊の環境保全活動について			○		
58		人材育成	行政	道外	イベントの周知依頼		○			

No.	対応年月	事業区分 (EPO 事業対応)	相談者属性	相談者 活動地域	相談事項	中間支援機能 ※			
						変革促進	プロセス支援	資源連結	問題解決提示
59	2019.7	人材育成	行政	空知	イベントの周知依頼		○		
60		人材育成	学校教育関係者	石狩	社会教育主事等研究協議会における講師依頼				○
61		中間支援	NPO/NGO	石狩	被災者支援に関する関係者の紹介			○	
62		人材育成	NPO/NGO	石狩	パブリックコメントワークショップについて	○		○	
63		協働取組	行政	石狩	道内における地域循環共生圏キーパーソンの紹介			○	
64		人材育成	行政	石狩	いじめとSDGsの関係性について			○	○
65		人材育成	行政	十勝	SDGs セミナーへの登壇依頼		○		
66		協働取組	企業	石狩	札幌市南区／環境学習の展開について				○
67		人材育成	行政	石狩	カードゲーム「2030 SDGs」の実施について	○		○	
68		人材育成	NPO/NGO	石狩	学習プログラムの開発について			○	
69	2019.8	人材育成	企業	石狩	道産木材利活用に関する研究会への参加依頼		○		○
70		中間支援	企業	上川	EPO 北海道でのSDGsへの取り組み、活動内容等			○	
71		人材育成	行政	石狩	林産試験場開発の児童用アナログゲームについて			○	
72		中間支援	NPO/NGO	石狩	トランシーバーの譲渡先について			○	
73		人材育成	企業	石狩	事業とSDGsの関連について			○	
74		人材育成	学校教育関係者	石狩	札幌市内の中学生によるSDGsの活動について		○		
75		人材育成	企業	オホーツク	SDGs ゴール3に関わる数値目標について			○	
76		協働取組	行政	道外	湿地関係者の紹介			○	
77		人材育成	NPO/NGO	石狩	札幌近郊の環境団体の紹介		○	○	
78		人材育成	企業	石狩	9/8（日）主催事業に係る問い合わせ			○	
79		人材育成	学校教育関係者	十勝	札幌市営地下鉄沿線にある教育施設について		○	○	
80	2019.9	人材育成	学校教育関係者	石狩	SDGsの情報提供等について		○	○	
81		中間支援	企業	日高	「グリーン購入法に基づく基本方針」について			○	
82		人材育成	学校教育関係者	石狩	SDGsの情報提供等について		○		○
83		人材育成	行政	オホーツク	全道社会教育主事研修における出前講座依頼			○	○
84		人材育成	ユース	石狩	ユース人材の紹介依頼			○	
85		人材育成	行政	根室	高校生向けのSDGs情報提供依頼		○		○
86		中間支援	行政	渡島	気候変動ゼミへの協力依頼		○		
87		人材育成	NPO/NGO	空知	NPO法人ウェブサイトに関する意見聴取	○			○
88		人材育成	NPO/NGO	石狩	SDGsに関する動画の照会			○	
89		人材育成	学校教育関係者	空知	SDGs バッジの購入について			○	

No.	対応 年月	事業区分 (EPO 事業対応)	相談者属性	相談者 活動地域	相談事項	中間支援機能 ※				
						変革 促進	プ ロ セ ス 支 援	資 源 連 結	問 題 解 決 提 示	
90	2019.10	人材育成	ユース	道外	道内企業の SDGs の取り組みについて			○		
91		人材育成	行政	道外	SDGs ワークショップについて		○	○		
92		人材育成	企業	石狩	テレビ番組における SDGs の説明について		○			
93		協働取組	NPO/NGO	道外	PCWS について		○	○		
94		中間支援	行政	石狩	サケの専門家のご紹介			○		
95		中間支援	NPO/NGO	石狩	バイオプラスチックの利用企業について			○		
96		人材育成	企業	石狩	SDGs に係る情報提供依頼			○		
97		中間支援	企業	十勝	SDGs に係る情報提供依頼			○		
98		人材育成	企業	石狩	企業における SDGs と建設業の SDGs 事例について		○	○		
99		人材育成	NPO/NGO	石狩	先生方への SDGs の情報提供について		○	○		
100		人材育成	学校教育関係者	石狩	SDGs に係るゲストティーチャー派遣について		○			
101		人材育成	NPO/NGO	道外	SDGs に関わる札幌出身ユースについて			○		
102		人材育成	行政	石狩	SDGs セミナーにおけるパネル出展の周知について			○		
103		人材育成	行政	オホーツク	鳥類の保全に関わる高校について			○		
104		人材育成	企業	根室	SDGs に係る情報提供依頼			○		
105		人材育成	NPO/NGO	胆振	地域 ESD 拠点の登録について			○		
106		2019.11	人材育成	行政	オホーツク	小学生対象の新聞コンテストについて			○	○
107			中間支援	企業	留萌	海洋保全活動または乳製品製造と環境保全活動団体について			○	
108			人材育成	NPO/NGO	石狩	SDGs に係る情報提供依頼			○	
109			協働取組	NPO/NGO	石狩	環境教育に係る資金調達について			○	
110	協働取組		NPO/NGO	石狩	環境団体のファシリテーションテキストについて	○			○	
111	人材育成		NPO/NGO	道外	ナチュラルステップについて		○	○		
112	人材育成		企業	石狩	教育情報誌への寄稿について		○			
113	人材育成		行政	石狩	SDGs セミナーのグループワークのファシリテーターについて		○			
114	人材育成		行政	石狩	SDGs に係る情報提供依頼			○	○	
115	中間支援		行政	空知	防災関係の派遣制度について			○		
116	人材育成		ユース	石狩	野菜からのバイオエタノール生成について		○	○		
117	中間支援		企業	石狩	避難所運営ゲームについて			○		
118	2019.12	人材育成	企業	石狩	SDGs カードゲーム等について			○		
119		中間支援	行政	渡島	COOL CHICE について/CO2 排出量のデータ公開について			○		
120		人材育成	行政	石狩	SDGs に取り組む企業の紹介		○			

No.	対応 年月	事業区分 (EPO 事業対応)	相談者属性	相談者 活動地域	相談事項	中間支援機能 ※			
						変 革 促 進	プ ロ セ ス 支 援	資 源 連 結	問 題 解 決 提 示
121	2019.12	人材育成	行政	石狩	SDGs に取り組む企業の紹介		○		
122		人材育成	学校教育関係者	石狩	北海道 ESD センターの取り組みについて		○	○	
123		人材育成	NPO/NGO	道外	ESD フォーラムにおけるグループワークの進め方		○		○
124		人材育成	行政	空知	ESD 全国フォーラムブース出展データの提供			○	
125		人材育成	行政	十勝	SDGs 講演者紹介			○	
126		人材育成	企業	空知	建設業と SDGs について		○		○
127		人材育成	NPO/NGO	石狩	子ども環境白書について			○	
128	2020.1	人材育成	行政	石狩	SDGs 宣言のレイアウトや内容について		○		
129		協働取組	企業	石狩	市民団体等への寄付の仕組みについて		○	○	
130		人材育成	NPO/NGO	道外	ユース対象の事業について		○		○
131		中間支援	企業	石狩	EPO 北海道について			○	
132		人材育成	行政	石狩	SDGs をテーマにしたセミナーについて		○		○
133		人材育成	企業	石狩	企業における SDGs の取り組みに関する	○	○	○	
134		人材育成	ユース	石狩	札幌市内のフェアトレード商品扱い店舗について			○	
135		人材育成	学校教育関係者	石狩	SDGs と大学の関係について		○	○	
136		中間支援	NPO/NGO	後志	SDGs に関する講演依頼			○	
137		人材育成	行政	渡島	SDGs とホテルの関係性について			○	
138		協働取組	学校教育関係者	道外	EPO 北海道が行う環境教育及び協働取組について			○	

① 事業区分（単数回答）

区分	件数	(%)
（事業群1）協働取組	19	14
（事業群2）ESD	86	62
（事業群3）中間支援	33	24
計	138	100

② 相談者属性（単数回答）

区分	件数	(%)
NPO/NGO	41	30
企業	28	20
行政	40	29
学校教育関係	22	16
ユース	7	5
計	138	100

③ 相談者活動地域（単数回答）

区分	件数	(%)
空知	9	7
石狩	77	56
後志	2	1
胆振	1	1
日高	5	4
渡島	6	4
檜山	0	0
上川	7	5
留萌	1	1
宗谷	0	0
オホーツク	5	4
十勝	7	5
釧路	0	0
根室	2	1
道外	16	12
計	138	100

※「中間支援機能」について（複数回答、N=138）

区分	機能の内容	件数	(%)
変革促進	課題の可視化 等	7	5
プロセス支援	協働の構築／問題の定義やニーズの認識／解決法の探索・導入等の支援 等	49	36
資源連結	解決に関する知識や技術／財政的支援／ネットワーク等の情報提供 等	102	74
問題解決提示	解決法やその影響の提示 等	28	20

表3 2019（令和元）年度 相談対応等に基づいた出前講座等一覧

No.	事業名	主催者	開催日等	開催地	参加者数 (人)
1	2019年度北海道青少年教育施設協議会 総会及び所長研究協議会	北海道青少年教育施設協議会	5/23（木）	美瑛町	26
2	令和元年度（2019年度）社会教育指導会議	北海道教育庁生涯学習推進局生涯学習課	6/13（木）	札幌市	30
3	HIF SDGs 勉強会 第3弾	一般財団法人北海道国際交流センター	7/19（金）	函館市	12
4	令和元年度 第2回 石狩管内社会教育主事等研究協議会	石狩管内社会教育主事会	7/30（火）	札幌市	16
5	第23回 SOFIS ワークショップ	札幌聖心女子学院	8/1（木）	札幌市	42
6	令和元年度 道立青少年体験活動支援施設社会教育主事等研修会	北海道教育庁生涯学習推進局生涯学習課	8/28（水）	札幌市	14
7	令和元年度（2019年度）第1回社会教育主幹会議	北海道教育庁生涯学習推進局生涯学習課	10/9（水）	札幌市	9
8	高等学校生徒会フォーラム	ネイパル北見	11/3（日）	北見市	63
9	SDGs×北海道 交流セミナー in 釧根	北海道	11/19（火）	釧路市	52
10	鹿追町税対策委員会 役員研修	鹿追町税対策委員会	11/19（火）	札幌市	15
11	令和元年度さっぽろ女性応援フェスタ 分科会「地域で SDGs を実現するには」	北海道女性起業家支援ネットワーク事業事務局 (札幌市男女共同参画センター内(公財)さっぽろ 青少年女性活動協会)	11/23（日）	札幌市	17
12	どさんこサイエンス教室 科学の力でSDGs（出演）	札幌テレビ放送	11/30（土）	-	-
13	（一社）北海道中小企業同友会 別海地区会 新春講演会	（一社）北海道中小企業同友会 別海地区会	1/23（木）	別海町	35

No.	事業名	主催者	開催日等	開催地	参加者数 (人)
14	北海道ソフトウェア事業協同組合 2019年度第2回例会	北海道ソフトウェア事業協同組合	1/30（木）	札幌市	13
15	札幌東ロータリークラブ 例会 SDGs 連続講話（予定）	札幌東ロータリークラブ	2/27（木） 3/5（木） 3/26（木）	札幌市	-
16	札幌大通倫理法人会モーニングセミナー（予定）	札幌大通倫理法人会	3/21（土）	札幌市	-

表4 2019（令和元）年度相談対応に基づいた共催事業等一覧

No.	開催日	事業名	連携組織	共催／協力等	参加者数（人）	参加者満足度
1	4/10 （土）	ESD 北海道ユース・ダイアログ	北海道学校 ESD 実践研究会	共催	33	100%
2	7/22 （月）	SDGs×生物多様性 講座	北の里浜 花のかけはしネットワーク （はまひるがおネット）	共催	31	100%
3	7/24 （水）	北海道 SDGs 推進プラットフォーム 第1回 SDGs 推進委員会	事務局：生活協同組合コープさっぽろ本部	アドバイザー	17 （委員数）	-
	10/18 （金）	第2回 SDGs 推進委員会 （第1回 SDGs 研究会）				
	1/17 （金）	第3回 SDGs 推進委員会 （第2回 SDGs 研究会）				
4	9/30 （日）	「WE えべつ祭り 2019 第二回おしごと たいけんキッズパーク」内ワークショップ 「えすでいじーずを学んで SDGs 調査隊 員になろう！」	主 催：一般社団法人北海道中小企業同友会 札幌支部江別地区会 実施協力：酪農学園大学	協力	約 100	-

表5 2019（令和元）年度 EPO 北海道ウェブサイトの情報発信における「GAP 重点分野」「SDGs」分類結果

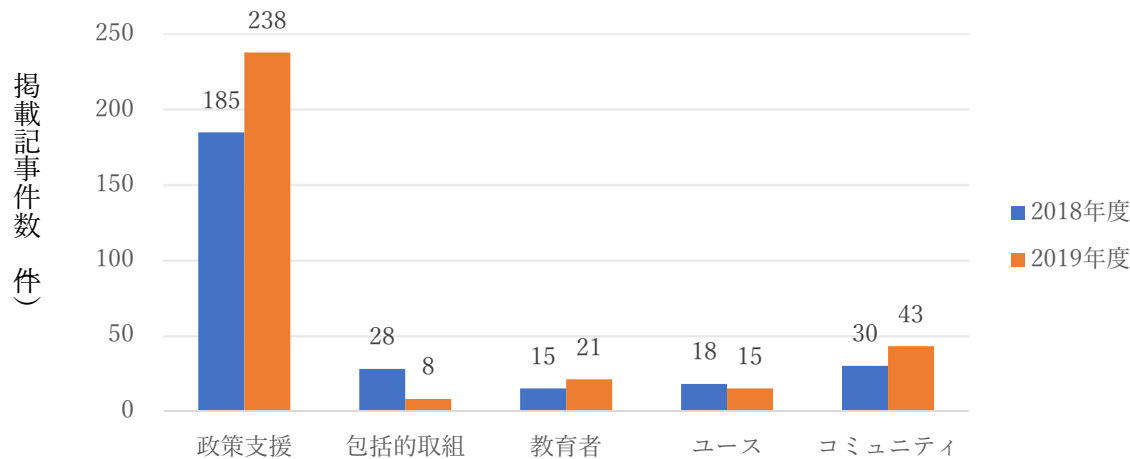
掲載記事合計数 281 件（2018年度 324 件）

※複数選択（GAP 重点分野については該当なしも含む）

① GAP 重点分野による分類結果

GAP 重点分野	掲載記事件数			
	2018 年度		2019 年度	
	行政情報	EPO 活動情報	行政情報	EPO 活動情報
政策的支援	181	4	234	4
機関包括型アプローチ	26	2	5	3
教育者	14	1	19	2
ユース	15	3	12	3
地域コミュニティ	23	7	37	6
計	259	17	307	18

EPO北海道ウェブサイトにおける
GAP重点項目分類結果の経年変化



② SDGs による分類結果

SDGs	掲載記事数（件）			
	2018年度		2019年度	
	行政情報	EPO 活動情報	行政情報	EPO 活動情報
1 貧困	14	7	26	8
2 飢餓	17	8	32	9
3 健康な生活	41	7	45	10
4 教育	73	13	97	17
5 ジェンダー	17	7	19	9
6 水・衛生	51	7	62	11
7 エネルギー	98	9	99	9
8 雇用	32	8	31	10
9 インフラ	44	9	46	9
10 不平等の是正	11	7	25	8
11 安全なまち	73	12	93	11
12 生産・消費	105	7	105	11
13 気候変動	151	10	120	11
14 海の豊かさ	70	7	109	11
15 陸の豊かさ	84	8	111	10
16 法の支配等	32	8	44	8
17 パートナーシップ	79	16	8	18
計	992	150	1,199	180

EPO北海道ウェブサイトにおけるSDGs分類結果の経年変化

